



ここからは樹林整備の内容
について詳しくみてみよう

Ⅲ. 樹林整備の基本方針

Ⅲ 樹林整備の基本方針

六甲山系は地形が急峻であり、かつ風化の著しい花崗岩によりほぼ全山が覆われています。このため、ひとたび大雨・長雨が降ると土石流や斜面崩壊が発生しやすく、過去に幾多の災害をもたらしています。また、昭和30年代以降山麓部の都市化が急激に進行し、六甲山系の急斜面直下のみならず山腹斜面にまで住宅が建ち並ぶ状況が見られ、土砂災害が起これば甚大な被害に及ぶ危険性が高くなっています。

このため、六甲山系GB整備事業においては、土砂災害防止効果の高い樹林を目指し、基本的な樹林整備方針を次のとおり設定しています。

樹林整備の基本方針

「様々な高さの木や下草がバランスよく生え、
いろいろな樹齢・樹種により構成された樹林の形成・保全」



土砂災害防止上望ましい樹林のイメージ

Ⅲ 樹林整備の基本方針

- ・ 林内に光が当たる**落葉広葉樹林**では、下草や低木が生え、地表面の土壌が雨により流されにくくなります。
- ・ いろいろな樹齢、樹種があると、深い根や浅い根が絡み合い、地面が崩れにくくなります。
- ・ また、このような樹林には、植物だけではなく、多くの種類の動物や昆虫が住むことができます。